

## 第 1 回 検討協議会の主な意見について（論点整理）

## （市立幼稚園をとりまく環境とその変化について）

- 国の動向を見てみると、保育園を中心とする整備に注力してきており、私立幼稚園は園児がいなければ潰れるという厳しい環境に置かれてきたため、それを防ぐために必死に先々を読んで変えてきた。
- 新制度になったから公私のバランスが崩れたわけではなく、函館市内では従来の就園奨励補助制度のなかで私立が保育料を高く設定しなかったのが公私の差はほとんどなくなってきていた。

## （市立幼稚園の今後の方向付けや存廃について）

- 函館市では、昨年 1,600 人ほどしか子供が生まれなかったということから、今存在する幼稚園・保育園で分配すると考えれば、公立の保育所と同じように、廃園にするならするという方向付けをしていかなければならない。
- 子どもを集団で育てるという点では、5 人、6 人といった人数でいいのかという話になると難しいところがある。ただし、戸井幼稚園については、公益性といった点からも考えなければならないのではないかと。
- 父母のニーズとしては、預かり、送迎、給食といったサービスにあるが、市立はそれができてこなかった。市立を存続したいのであれば、この状態を私立と同じレベルにしなければならないが、それができないのであれば、結果は見えている。
- 函館市内には幼稚園が多く、代替施設として十分機能する。戸井幼稚園についても、湯川方面の幼稚園の状況から、バスを走らせれば十分機能すると思う。園児数もかなり少なくなっており、これを存続させる意味があるのか疑問。
- 市立幼稚園の現在の園児数の状況は、大きな施設を維持していくなかで、維持費等もかさむことから、民間であれば経営が成り立たない。

## （函館市の幼児教育のあり方について）

- 今の父母の目は、サービスに行きがちだが、小学校に上がるまでの発達段階に応じた必要な保育・教育というものは普遍的で変わってはいない、その中で函館の幼児教育をどうしていくべきか関心をもつべき。
- 一度なくしてしまうと再度設置するのは難しい。函館市はこの後幼稚園をなくしていった子育て支援をどのように考えるのか、将来の函館市を担う子どもたちをどう育てるのか、慎重に検討し、考えておかなければならない。